

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
2013 年度（前期） 在宅医療助成 指定公募②
報 告 書

浅草観音裏 在宅仲間の DI 研修会

—在宅医療現場の服薬指導＋服薬支援に専門職間連携(IPW)と
DI(医薬品情報)サポートを—

ケイ薬局 宮原富士子

提出日：2014 年 3 月 31 日

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
理事長 住野 勇 様

ケイ薬局 宮原富士子

この度 下記の通り研修会を開催いたしましたので、ご報告申し上げます。

記

研修会名：浅草観音裏在宅仲間のおくすり(DI)研修会

日時：平成25年9月～平成26年2月（全14回シリーズ）18：30～21：00

場所：ブルーウェーブイン浅草・茶房花の辻・浅草医師会会議室・浅草三業会館

対象：薬剤師、看護師、ケアマネージャー、保健師等 保健医療関係者

主催：浅草観音裏 在宅仲間のおくすり(DI)研修会

共催：特定非営利活動法人 Healthy Aging Projects for Women(NPO 法人 HAP)

後援：浅草かんわネットワーク研究会/勝海舟記念 下町（浅草）がん哲学外来

助成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

内容：次頁の通り

日時	場所	タイトル	講師
H25年9月18日(水) 18:30～21:00	ブルーウェーブイン 浅草	より良い血圧管理を目指して これからの高血圧治療とチーム 医療	日本大学医学部総合健診センター 久代登志男先生
H25年9月24日(火) 18:30～21:00	ブルーウェーブイン 浅草	骨粗鬆症、骨粗鬆症マネージャ ー認定制度について	NPO法人HAP 宮原富士子氏
		美しく立つ、ロコモとロコトレ 技術(3つのA、3つのS)	帝京平成大学健康メディカル学 部理学療法学科 渡會公治先生
H25年10月8日(火) 18:30～21:00	茶房 花の辻	経腸栄養療法における注意点 栄養表示・食習慣アセスメント	大塚製薬工場学術部 青井昭三氏 ジェンダームメディカルサーチ宮原富士子氏
H25年10月21日(月) 18:30～21:00	ブルーウェーブイン 浅草	糖尿病治療薬《チーム医療の 中での糖尿病疾病管理》	東埼玉総合病院代謝内分泌科 中野智紀先生
H25年10月29日(火) 19:00～21:00	ブルーウェーブイン 浅草	睡眠と睡眠薬の使い方	杏林大学精神神経科学教室 中島 亨先生
H25年11月5日(火) 18:30～21:00	ブルーウェーブイン 浅草	緩和ケア、疼痛管理の考え方/ 具体的な疼痛管理事例	慶應義塾大学病院・野中医院 安達昌子先生
H25年11月13日(水) 18:30～21:00	ブルーウェーブイン 浅草	緩和ケア、疼痛管理の考え方/ 具体的な疼痛管理事例	三井記念病院 緩和ケア科 廣橋 猛先生
		オピオイドローテーション (病院薬剤部) 薬剤師の関わり	三井記念病院 薬剤部 鷹野 理先生
H25年11月26日(火) 18:30～21:00	ブルーウェーブイン 浅草	傷の正しい治し方～創傷治療の 3原則から褥瘡のラップ療法～	医療法人三和会東鷲宮病院 循環 器・血管外科 副院長 褥瘡・創傷 ケアセンター 水原章浩先生
H25年12月19日(木) 18:30～21:00	ブルーウェーブイン 浅草	症例からみる緩和ケアチームに おける薬剤師の役割	慶應義塾大学病院 薬剤部 金子 健先生
H26年1月21日(火) 19:00～21:00	ブルーウェーブイン 浅草	認知症に使われる医薬品	ふくろうクリニック等々力 山口 潔先生
H26年1月22日(水) 18:30～21:00	浅草医師会 会議室	在宅現場の服薬に活かせる “簡易懸濁法”	昭和大学薬学部薬物療法学講座 薬剤学部門 倉田なおみ先生
H26年1月31日(金) 18:30～21:00	ブルーウェーブイン 浅草	どうして海外承認薬が使えない の?～日本の医薬品開発の現状 について～	独立行政法人医薬品医療機器総 合機構 新薬審査第五部 井口豊崇先生
H26年2月13日(木) 18:30～21:00	浅草三業会館 (浅草見番)	排泄(尿・便)の基本の理解と排 泄ケアに必要な障害の理解と 対応(第1回)	排泄ケアサポートセンター ウエルビーイングオフィスK 梶原敦子氏
H26年2月27日(木) 18:30～21:00	浅草三業会館 (浅草見番)	排泄(尿・便)の基本の理解と排 泄ケアに必要な障害の理解と 対応(第2回)	排泄ケアサポートセンター ウエルビーイングオフィスK 梶原敦子氏
☆毎回ワンポイントレクチャー		医薬品の適正使用、各領域おく すり早わかり、処方箋疑義紹介	NPO法人HAP 宮原富士子氏

参加総人数 : 379人 (全14回)

各回内訳 :

第1回	より良い血圧管理を目指して これからの高血圧治療とチーム医療	: 26人
第2回	骨粗鬆症、骨粗鬆症マネージャー 認定制度について 美しく立つ、ロコモとロコトレ技術 (3つのA、3つのS)	: 27人
第3回	経腸栄養剤/健康食品 栄養表示・食習慣アセスメント	: 34人
第4回	糖尿病治療薬《チーム医療の中での糖尿病疾病管理》	: 18人
第5回	睡眠と睡眠薬の使い方	: 27人
第6回	緩和ケア、疼痛管理の考え方/具体的な疼痛管理事例	: 28人
第7回	緩和ケア、疼痛管理の考え方/具体的な疼痛管理事例 オピオイドローテーション (病院薬剤部) 薬剤師の関わり	: 36人
第8回	傷の正しい治し方 ~創傷治療の3原則から褥瘡のラップ療法~	: 33人
第9回	症例からみる緩和ケアチームにおける薬剤師の役割	: 23人
第10回	認知症に使われる医薬品	: 29人
第11回	在宅現場の服薬に活かせる“簡易懸濁法”	: 32人
第12回	どうして海外承認薬が使えないの? ~日本の医薬品開発の現状について~	: 22人
第13回	排泄(尿・便)の基本の理解と排泄ケアに必要な障害の理解と対応 (1)	: 22人
第14回	排泄(尿・便)の基本の理解と排泄ケアに必要な障害の理解と対応 (2)	: 22人

【感想】

浅草地区の在宅医療に関わる医師、訪問看護師、薬剤師、ケアマネージャーを中心に総勢のべ379名の参加をいただき、在宅医療に関わる疾患・治療薬について共通用語をもつ契機となったこと、顔の見える関係の強化に役立ったことは浅草地域にとっても、また多くの在宅医療を目指す医療介護者にとってのコンテンツ作りとしても大変有意義であったと思います。

終了時点でのアンケートでも下記4項目に関して、詳細な意見・感想をいただきました。ここに報告致します。

- ① 在宅DI研修会を請けて感じたこと (主に内容についてよかったことと意見)
- ② 多職種連携について (自分以外の職種との連携について感じたこと (よかったことと意見))
- ③ 薬剤師との連携について感じたこと (よかったこと意見など)
- ④ 今後希望するテーマ (リピートしてほしい内容など)

特に、在宅医療において参入が遅れている薬局・薬剤師との関わりについてもお互いの認識を新たに作る機会であったことが印象的です。今後はこの助成で得た、ノウハウをさらに継続して広げてゆき、標準化コンテンツにして全国に発信してゆきたいと思っております。

浅草観音裏 在宅仲間のDI研修会

ー在宅医療現場の服薬指導＋服薬支援に専門職間連携(IPW)とDI(医薬品情報)サポートをー

平成25年9月～平成26年2月実施 参加者アンケート(職種別)

1) 在宅DI研修を受けて感じたこと (おもに内容についてよかったこと 意見など)

<医師>

- ・DIを基に患者さんの生活が、ナラティブが見えてくる。

<看護師(訪問看護ステーション)>

- ・内容が多岐にわたっていて興味深い。
- ・薬学の勉強をしてこなかったのが、専門用語に戸惑った。しかし、学ぶ事で実践の場に生かせる事が増え、自分自身の自信につながると思う。
- ・褥瘡治療について学びたかったのが、大変有難かったです。創傷治療の3原則を知り、昔の考えと真逆で目からうろこでした。早速、在宅の現場で実行し、本当に早く治りました。水原先生の著書は持っていましたが、ご高名な先生の研修を受けることができ、大変良かったです。ありがとうございました。
- ・月に3回はちょっとハードで参加できないことが多く、申し込んだのに行くことができず残念でした。すみません。もう少しゆっくりにしてもらえれば出られたかもしれません。
- ・それぞれ質の高い内容でした。同じ内容をもう一度復習したいです。

<薬剤師(病院)>

- ・病院勤務であるため、在宅の方の問題点などが今までは分からなかったのですが、新たな視点で考えるようになりました。退院後のご本人や介護側の負担を減らし、問題を予見できるように今後も勉強していきたいと思いました。
- ・各立場の薬剤師が、特に保険薬局のフィールドでそろって学ぶ場というのが今まで不足していたので、そのことだけでも意義があったと思います。

<薬剤師(保険薬局)>

- ・日常業務で使える内容が多く、とても役に立った。
- ・在宅について全く知識がなかったので、どんなことをしているのか、どんなことが重要なのか理解できて楽しかった。
- ・在宅ドクター、看護師さんなど、現場の方の考え方が生で聞けてよかったです。
- ・先生やメーカーの方が普通の講習より長く話をして下さり、少人数なので普段聞けない話が聞けて良かった。
- ・簡易懸濁法が様々な薬品に使えることが判り、胃・腸ろう患者だけでなく嚥下困難者に投与の際も粉碎の必要性がないことを知り、大変参考になった。
- ・もっとたくさん受けたかったが、遅れて行くと一番聞きたかった事がもう終わっていて抜けてしまったり残念だった部分もあった。でも他の勉強会より豊富に資料を頂けてありがたい(パワポ資料ももらえない勉強会が最近多いので)。討論みたいなものももっとできて良いと思う(考え方の共有というか)。
- ・褥瘡の実際の処置について薬剤師は学ぶ場が少ないと感じていたのが良かった。瘡部の写真とともに薬剤選択の理由を教えて頂けたことが特に勉強になりました。
- ・これからの時代、在宅は必要不可欠なものと感じた。先生の経験をもとに、たくさんのお話が聞けてとても参考になりました。特に寝たきり状態でおこる褥瘡は水で洗ってからのラップ療法、高いお金をかける必要のないことを初めて知りました。知らないことだらけの研修会で、本当に良いお勉強をさせて頂きました。
- ・現場に即した知識を得る事ができた。他の職種の方が困っている所がわかった。又、欲しい情報は何かも知ることができた。

- ・講師に Dr が多く、臨床現場での話が聞けて参考になった。
- ・倉田先生の講演の中で、また新しい内容を発見できました。
- ・毎日の業務では勉強することのない栄養剤などについて聞けて良かった。
- ・各分野の有名な方のお話が聞けて、とても勉強になりました（ラップ療法、簡易懸濁法等）。

<薬剤師（その他）>

- ・どのテーマもとても役立つ内容でわかりやすく、もっと多くの方にも案内したいくらいの満足度でした。この勉強会は、もちろん在宅をされている方の受講が多いとは思いますが、これから始める、始めたいけどわからない方が受けてもいい内容ですし、またそのような方に、はじめてするにあたってどのような事が必要なのかといった講座もあるともっと受講も増え、また色々な交流も広がると思います。
- ・2つの講義を受講させていただきましたが、特に認知症の講義は実際の症例や薬剤の使用感などのお話もまじえて聞くことができ、大変勉強になりました。また、現場（薬局など）で働かれている先生方の質問も、とても興味深いものでした。

<ケアマネージャー>

- ・具体例を通じての話とあるべき姿の話&ギャップと、今後現場にたずさわる者同志がどうあったら良いか考えることができた。
- ・薬や医療について知らない事が多いので、様々な内容を取り上げて研修を開催していただけてよかったです。
- ・いろいろな分野の専門医の先生のお話が聴講できてよかった。特に糖尿病・高血圧・創傷治療（水原 Dr）・認知症・簡易懸濁法（倉田 Dr）の講座はもう一度受けたと思います。
- ・最後の回のみ参加させて頂きました。排泄については大変勉強になりました。それ以前のプログラムに参加できなかったことが残念です。
- ・薬剤師の方々が常に勉強されているのを見て感心しました。降圧剤、眠剤は使用されている方も多いので勉強になりました。ロコトレも思い出した時だけでなく、続けなければと思いますが、なかなか…。やっていません。
- ・学問的な話で、耳をしっかりと傾けても難しい面がありましたが、自分から積極的に参加して肌で感じる現状を学べていければ、少しは役に立つ人になるのではと常々感じて考えています。

<その他>

- ・なかなか参加できず、2/27のみ参加させて頂きました。大変参考になりました。（介護員）
- ・様々な状態の患者さんがいる中で、専門の方々の意見や対応方法を教わることができ、とても参考になりました。（鍼灸師）
- ・製薬会社の私共も参加させて頂き、有難うございました。各種の職業の方が個人として参加される姿を拝見し、意欲のある勉強熱心な方々の元に日頃お邪魔をさせて頂いているのだと実感し、身が引きしまりました。（製薬会社）
- ・医療関係の仕事ではない自分ですが、少しでも何かのお手伝いができるのではと考え続けています。そのきっかけをいただけたように思います。（ヨーガ・インストラクター）
- ・在宅をまだ経験していないので、また違った観点でお話を聴く事ができて良かったです。（職種不明）
- ・多数の他職種の医療者が集まり熱心なディスカッションに参加され、この様な会（組織）の広がりを期待する。（職種不明）

2) 多職種連携について（自分以外の職種との連携について）感じたこと（よかったこと意見等）

<医師>

- ・信頼関係になれるかにかかっているでしょう。

<看護師（訪問看護ステーション）>

- ・在宅ケアを行う上で、連絡しやすくなりました。このDI研修でもう少しディスカッションできる時間が作れるともっと良いですね。
- ・参加が一部で、あまりこの中では関わることはなかったが、参加者の内訳などわかるともう少し全体が見えやすかった。
- ・連携が取れ、情報共有が出来て、それを生かす事が利用者への第一歩となるので、顔が見える連携は大切と思う。また、顔が見えなくても、常に相手に伝わる様に対応していくことも感じている。
- ・顔見知りになることはとても大切だと思います。交流の場が増えることはいいと思います。

<薬剤師（病院）>

- ・今回の研修会参加にあたっては、医師の講義を聞いた以外は、特に連携はしなかったのですが、地域と病院との連携を強めていきたいと思いました。
- ・おそらく看護師さんなどは、こういう場で学んだことをどんどん現場に活かしていけるのだろうなと思いました。薬剤師側からアプローチする機会を増やさなければと思います。

<薬剤師（保険薬局）>

- ・他の職種の方のお話が聞けたことが初めてだったので、よい経験になったと思う。
- ・在宅で看護師さんがどのような仕事をしているのか知ることができてよかった。
- ・今まで多職種との連携について必要性を感じていなかったですが、他職種の方の意見を聞いて、小さな事でも情報共有していきたいと思いました。
- ・当然ながら連携は必要。立場が違ふと考えることが違ふというのは面白く、参考になる。
- ・簡易懸濁の知識を他職種の方々と共有することにより薬剤師の職能の多様性を広く知ってもらえた。
- ・他の職種がどんな事をしているのかがまずよく分からない（基礎的知識・情報がないだけですが）。
- ・在宅訪問をしていてまだ薬剤師がどのような仕事を担っているのか、多職種の方には伝わっていないと感じています（特にケアマネさんなど）。薬のお届けというイメージが強い。
- ・薬薬連携だけではなく、いろいろな職種の方との連携の必要性、経験上からのお話しはとても参考になりましたが、薬剤師が入りこむのは難しい気がします。在宅にはお医者さんと看護師さん、ケアマネジャーとの信頼があってこそだと思います。
- ・患者様の状況把握が、多面的にかつ適宜できる。認知症などで理解力に欠ける独居の方のサポートも可能になる。
- ・Nsからの質問で、患者さんと接する上で出てくる疑問点だったので参考になった。
- ・特に訪問看護の方の意見は現場の状況がわかるので、在宅には役立つと思います。
- ・薬剤師だけでなく、多職種の方が参加する勉強会だったので、懇親会で様々な方とお話できて良かったです。地区は違いますが、また仲間に入れて頂ければ幸いです。

<ケアマネジャー>

- ・それぞれの職種の人と身近に話ができる場ができることはよい。講義後に20分でもGW等があったりすると、もっと交流の機会が増えるのではないかと
- ・役割分担や視点の違いがあっても、その人を支えるという同じ目的で連携していくためには、様々な職種の方々と顔を合わせて研修を受ける機会や話をするのはとても大切だと感じました。
- ・特に薬剤師さんとの職種連携ができたように思います（金子先生・鷹野先生）
- ・視点をかえての問題の捉え方を学ぶこと。
- ・医療系との連携は特に大切と思っていますので、多職種との繋がりも持っていきたいと思います。

- ・在宅訪問できる（指導できる）薬剤師さんが増えればよいと思う。

<その他>

- ・色々な職種の方々と交流が持てる事は出会える機会があり、大変うれしく感じております。（介護員）
- ・医師・看護師・薬剤師さんが何を考え、何を目指して日々患者さんに接しているかがわかり、ためになりました。また、鍼灸師として自分にできることや、他職種の方に繋ぐことの大切さがわかり、実践していこうと思いました。（鍼灸師）
- ・日頃は直接処方医師と薬剤師さんで顔を合わせて処方動機を確認する機会はないと思いますが、演者の先生から「疑問に思ったら薬剤師さんから先生に指摘をしてもいいんですよ」と言っていただけで、真の意味での連携が構築しやすくなるだろうと思いました。（製薬会社）
- ・製薬企業のMRとして、企業の壁を越えた発言が聞けた。（製薬会社）
- ・ヨーガ・インストラクターをやっておりますが、何らかの形で連携等できるのであれば、力になりたく思います。（ヨーガ・インストラクター）
- ・Drとの関わりなど、やはり難しい点があると再確認しました。（職種不明）

3) 薬剤師との連携について感じたこと（よかったこと 意見など）

<医師>

- ・訪問薬剤師が何をどこまでやってくれるか、やるべきか、ぜひ標準化してほしい。きつともっとみなが楽になるはず。

<看護師（訪問看護ステーション）>

- ・薬の管理・携帯・内容等話しやすく（相談しやすく）になりました。
- ・自宅でのセット等をしてもらうことで、看護で他のことに関われるので助かる。薬についての注意や使用法の助言をもらえるのがありがたい。Drへの報告書をNsとも共有してほしい。Nsもそうすべきですね。
- ・薬の取り扱いや服薬しやすい方法など、気がねなく相談出来る薬剤師の方が増えて、とても助かっています。
- ・一生懸命にやる薬剤師さんと、そうでない人と差がある。

<薬剤師（病院）>

- ・徐々に連携はさせていただいているが、未だ不足している点があるかと思っています。一方通行でなく、もう少しタイムリーに情報のやりとりやフィードバックができると、情報を送った側も、今後も続けようと思えるのだと思います。

<薬剤師（保険薬局）>

- ・やはり薬剤師はチームとして必要。
- ・他薬局が実際どれ位の水準の医療を提供できているのかがわかる一面があって良かった。（形式だけで併用薬の確認もろくにしていない薬局も多いので）
- ・薬に関しての情報提供、使用しやすいようにいろいろ工夫するなどは行えると思う。

<ケアマネージャー>

- ・専門の外へ出ることの大切さを実感した。
- ・薬剤師さんの役割や視点などが理解できたので、様々な場面で連携し、アドバイスなども受けられると思うと心強いです。
- ・薬剤師の方々の専門性を確認することができた（井口先生）
- ・薬のみ方について（忘れてしまった時の対応、飲みすぎてしまった時）利用者が不安に思うことや介護者からの相談に対応して頂けること。
- ・質問してアドバイスもいただける事。行きそうで行きにくかったのが、もっと行ってもいいんだという事がわかって良かった。
- ・ヘルパーに服薬管理らしきことをさせなくなっってよかった。

- ・訪看に本来の仕事をしてもらえるようになったこと。

<その他>

- ・薬剤師さんの仕事の内容が今まではよくわからなかった。少しでも話しをする機会があったので、色々とお聞きする事ができた。(介護員)
- ・服薬指導だけでなく、栄養状態の評価や緩和ケアなど、たくさんのお仕事を担っていると知り、今後も機会を作ってまた相談させて頂きたいと思います。(鍼灸師)
- ・医師の処方と、添付文書のギャップに悩まされる薬剤師さんのお気持ちがよくわかりました。そのようなギャップが生じないように、製薬会社として医師に適正使用をしっかりとお伝えしていこうと思います。(製薬会社)
- ・今後、連携していけたらよいと思います。(職種不明)

4) 今後希望するテーマ (リポートしてほしい内容含む)

<医師>

- ・退院処方について

<看護師 (訪問看護ステーション) >

- ・DMの薬、心不全の薬、抗精神薬 使用や選択などについて薬学的な対応
- ・糖尿病治療薬 (チーム医療の中での糖尿病疾病管理)
- ・緩和ケア、看取り (都合が合わず参加できませんでした)
在宅における ICT システムについて (お薬には関係ないかもしれませんが…)
- ・服薬指導、ワンポイントアドバイスのようなもの
- ・すべて

<薬剤師 (病院) >

- ・誤嚥や嚥下、呼吸器 (在宅酸素など) について伺えたらと思います。
- ・学び→実践が具体的にみえる様な内容のものは、もし試してみた施設やケースがあればそれを取りあげ、可能ならば講師をしていただいた先生、もしくはそれに相当する方に評価していただき、ディスカッションというのもありかなと思います。

<薬剤師 (保険薬局) >

- ・何でも…
- ・オピオイドローテーションについて
- ・精神病薬・漢方薬・睡眠薬・在宅・介護保険の制度 (点数、どんなサービスをどんな職種から受けられるのか)
- ・HPNに関する事 (ポンプ・カテーテルから輸液ルート・感染しないように気をつける事など) 褥瘡についてはもう一度聞きたいです。
- ・褥瘡について、簡易懸濁、ストマ・バルーン管理、CKD・透析患者のお薬など
- ・多職種連携のスムーズなとり方など
- ・フィジカルアセスメント (血圧測定など)
- ・在宅の連携というのは終わりのないものですので、その時代にあった連携を考えていく必要があると思います。
- ・夜で参加できなかつたりしたので、リポートして欲しいのが緩和ケア

<薬剤師 (その他) >

- ・緩和ケア、薬物動態
- ・山口潔先生の講義をまた受けたいです。
- ・資料のみ見させて頂きましたが、ラップ療法の講義も実際に聞いてみたいと思いました。

<ケアマネージャー>

- ・創傷治療、睡眠、認知症、骨粗鬆症については再度学びたい。
- ・緩和ケア→連携のあり方等についてディスカッションやあり方について。

- ・排泄における薬と日常ケアについて→参加できなかったので再度開催してほしい。
- ・糖尿病・高血圧・認知症・簡易懸濁法など
- ・骨粗鬆症、認知症に使われる薬、その他パーキンソン症の薬についてなど。

<その他>

- ・ターミナルケアについて（介護員）
- ・認知症患者や独居患者に対しての地域医療としての係わり方などをもっと勉強したいと思っています。研修会に参加させて頂きありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。（鍼灸師）
- ・生活習慣病と認知症（製薬会社）
- ・在宅医療における多職種の間理想と現実（製薬会社）
- ・抗ガン剤、治療等（職種不明）
- ・一般市民への啓発（特にオピオイドへの誤解を無くする）（職種不明）

本研修会は公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受け、無事開催および終了することができました。心より感謝申し上げます。